



研修初日(7. 25)

①
研修開始直前の様子です。
管内1都10県から研修生が集まります。
緊張感が漂います。



②
研修は臼杵徳一局長の挨拶で始まりました。



③
来賓の星野巳喜雄沼田市長より挨拶をいただきました。



④
オリエンテーションの様子です。
研修の進行役であるプロセスマネージャーの西さんです。
今回の研修が受講生とともに作り上げていく参加型の研修であると説明しています。



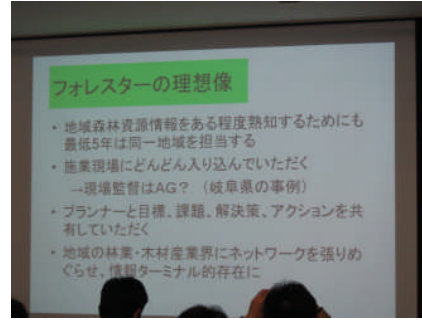
⑤
いよいよ講義の開始です。
准フォレスター研修の導入部分です。
担当するのは、林野庁岩田講師です。
「准フォレスターの役割、森林・林業再生プランの概要」と「市町村森林整備計画の概要」をテーマに講義をしました。



⑥
説明終了後の質疑応答では、研修生から様々な質問や意見がでました。



⑦
高橋伸幸群馬県森林組合連合会指導課長による「森林施業の集約化(提案型集約化施業)」についての講義です。



⑧
講義の1コマです。高橋講師が望むフォレスターの理想像について話がありました。



研修2日目(7. 26)

①
有賀一広宇都宮大学准教授による「路網と作業システム」についての講義です。



②
講義終了後も研修生からの質問が続きます。



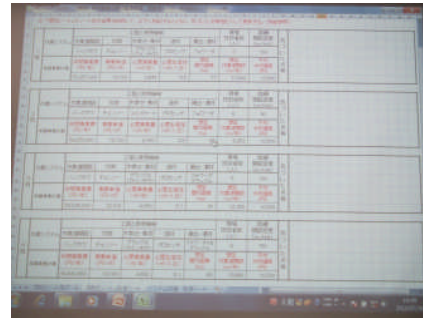
③
いよいよ今回研修のメイン形式「グループ演習」のスタートです。
グループになることで、他人がもつ経験や考え方を知り、多様な視点が養われます。また、知識のみでなく、コミュニケーションを通じて対人能力を培うことができます。



④
グループ演習の進め方について、林野庁鶴岡講師が説明しています。



⑤
その名の通り、グループ(班)に分かれて演習を行います。
取材に来た広報「RINYA」の記者も見入ってしまってます。(写真右上)



⑥
各班の演習成果がとりまとめられました。
表は間伐に係る収支です。



⑦
各班毎に成果を導くに至った経緯等について発表を行います。



⑧
続いて机上演習。路網(道)を計画する上で支障となる箇所を図面を見ながら考え、路線と間伐箇所を計画します。



⑨
各班から成果を発表します。



⑩
各班の考え方を踏まえ、再度検討を行います。



①
3日目は現地演習です。
グループに分かれて調査します。
写真は、間伐が遅れているスギの森林です。
将来像を描きながら今後どのように整備していくのか検討しています。



②
こちらは広葉樹が進入してきたカラマツの人工林。
将来、広葉樹林にするのか、再びカラマツを植えるのか等様々な事が考えられます。

研修3日目(7.27)



③
現地でも班毎に話合った事を発表し、各班の成果を共有します。



④
発表の後、講師から総評があります。
写真右は、内藤健司講師(宇都宮大学名誉教授)



⑤
写真左は、田中浩講師(森林総合研究所森林植生研究領域長)



⑥
午後は昨日の演習で路網計画を検討した現場です。
写真は沢を渡る道を付ける際の課題等について検討しています。
実際に現地を見ると机上では分からないことがたくさんあります。



⑦
写真は急傾斜の尾根に道を付ける際の課題等について検討しているところです。
急傾斜地の道は、雨水の影響を受けやすいため、線形には留意しないといけないことが分かります。



⑧
現地を見ることにより、机上では分からなかった問題点が見つかり、問題の解決に向け再度話し合います。



研修4日目(7.28)

①
市町村森林整備計画を作る演習です。
各班には共通の情報を示した上で検討を進めてもらいます。



②
図面では読み取れないところは、空中写真を見て判断します。



③
各班から発表が始まります。
5時間以上かけて検討した成果を全班で共有します。



④
同じ条件であるにもかかわらず、各班それぞれ個性的な成果が発表されます。



⑤
発表後には質問や意見交換を行います。



⑥
もちろん講師からの講評も行います。課題と再検討ポイントが浮かび上がってきます。



研修最終日(7.29)

①
後期研修に必要な課題(宿題)の説明。研修終了後も作業がまっています。



②
前期の研修を通して感じたこと、得たこと等について、意見交換を行います。



③
最後のグループワークです。目指すべきフォレスター像とは何か、そのためにやらなければならないことは何か等、班単位で話し合います。



④
最後の発表です。各班、フォレスターになることへの決意表明を行います。



⑤
大蔵克育指導普及課長による閉講の挨拶。



⑥
後期研修でまたお会いしましょう。